

都市に浮かぶ -小さな個が都市へとつながる家-



平面計画

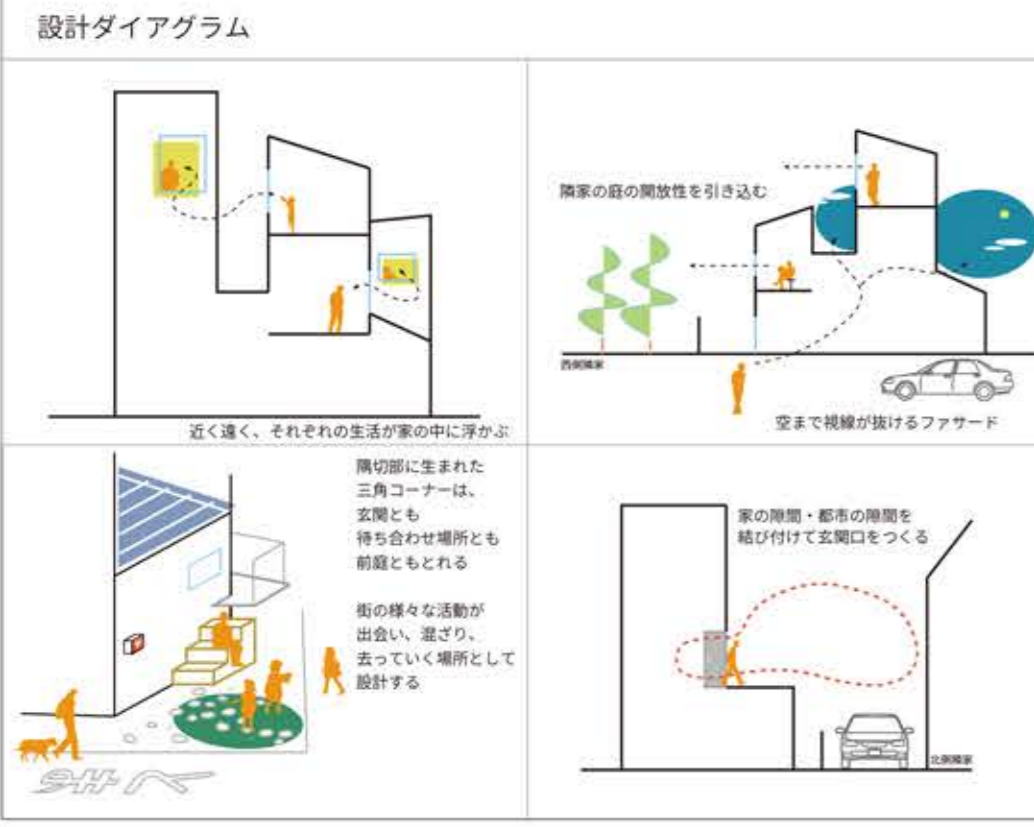
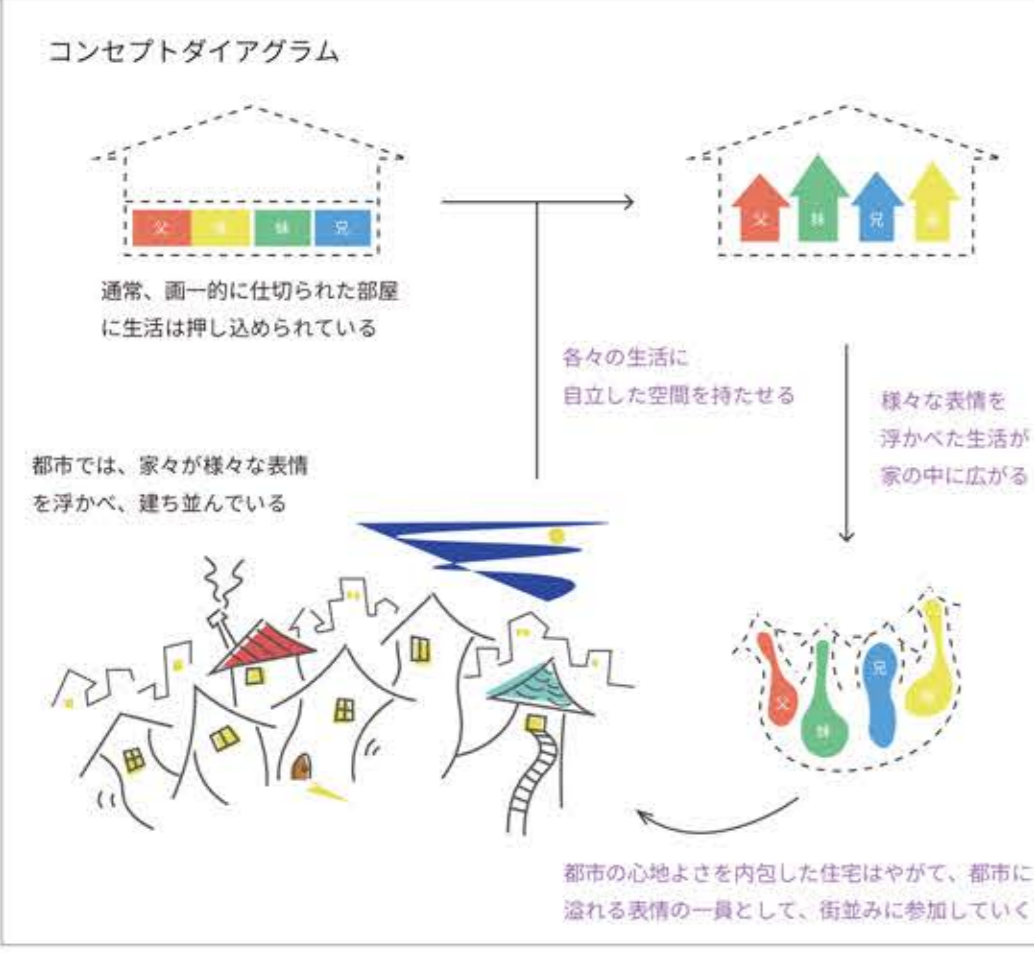
●3つの出入口
この家には入り口が3つある。1つ目は角地の隅切部からアプローチする屋根上の玄関。屋外階段によって街に一番近い場所から、家の隙間に入り込む。その左手にあるもう1つの入り口は子供部屋に直接出入りできる子供たちのための玄関。3つ目はダイニング横の勝手口。食料品の買い物から帰ってきた時や、ダイニングに直接友人を呼ぶときにはこちらを使うかもしれない。家族は3つの玄関から気兼ねなく家を出入りし、自由に家と街を往來する。

●寝室とワークスペース
最上階のプライベート性の高い寝室は、大きな開口やベランダから住宅地の屋根レベルで都市へと視覚的に繋がっている。また個の生活はそこに留まらず2階のセミプライベートなワークスペースに接続している。ワークスペース同士は家の中でも、屋根越しに見える家のように、程よい距離を持ちながら浮かんでいる。

●家族の集まる場所
1階に家族のダイニングキッチンとリビングがある。ここが一番都市から距離をとった場所である。水回りの壁以外は間仕切り壁を用いず、行き止まりのない広がり確保しながら、開口の位置を高くして視覚的に都市との距離をとり、喧騒から離れ落ち着いた地階のような空間をつくらせている。

| 面積表 | |
|------|-----------------------------|
| 1階 | 44.54 m ² |
| 2階 | 35.60 m ² |
| 3階 | 17.45 m ² |
| 延床面積 | 97.59 m ² (129%) |
| 建築面積 | 44.54 m ² (59%) |

都市に住まう楽しみが一番感じられる場所は、もしかしたら自分のベッドルームかもしれない。
都心の住宅地は日が落ちてしばらくしてからポツポツと明りが灯り、夜更けまで明るい。その中に浮いている自分の部屋と兄弟の部屋、そして隣の家の部屋。それらの小さな世界が屋根越しに交わる瞬間がある。みんなで住む家だけれど、それぞれの居場所はその奥に押し込められるわけではない。むしろ一番都市に近い位置にある。



屋根越しにある家族の気配。同じような距離感で隣家の窓や、その先の窓の向こうにも小さな生活を感じることが都市の醍醐味である。



個々のワークスペースが程よい距離を持って、ダイニング・くつろぎスペースの上に浮かぶ。



E

F